

資料 7-3-①

令和4年(2022年)6月29日(水)
第7回市民参加推進審議会

市民参加実施状況報告書①

| 市民参加を実施した計画・条例等の名称 | 実施所管名 |
|--|---------------------------------|
| 長期ビジョンの策定 | 未来デザイン室 |
| 策定の目的 | 策定期間(準備~策定) |
| 市民の誰もが夢と希望を持てるまちとするため、現状や課題を踏まえ、「みんなで目指す2040年の姿」と基本的な施策展開を示す「長期ビジョン」を策定する。 | 令和2年(2020年)4月 ~令和5年(2023年)3月 |
| 1. 策定にあたり実施した市民参加の方法 | |
| アンケート調査(市民、WEB、市外在住者、小中学生)、ワークショップ(中学校区別、高校生、大学生)、パブリックコメント手続(素案、原案(今年度実施))、懇談会 ※オープンハウスも予定していたが、コロナ禍を踏まえ中止 | |
| 2. 上記1で記載した市民参加方法を採用した目的、及び実施前に期待した効果 | |
| 多くの市民、地域の声を幅広く聴取し、長期ビジョンに反映(目標である「みんなで目指す2040年の姿」)するとともに、市民参加を通して、市政に興味・関心を持ってもらうこと。 | |
| 3. スケジュール設定について(より適切な市民参加方法を効果的に行うため、どのように考えて各市民参加方法の実施時期を設定したのか) | |
| 新型コロナウイルス感染症の影響、学校行事等を考慮し、実施時期を設定した。 | |
| 4. 対象者の設定について(計画や条例等の影響を受ける市民による積極的な参加や意見聴取が大切であることを踏まえた上で、どのように対象者設定を行ったのか) | |
| 幅広い世代を対象としたうえで、特に、これまで市民参加が少なかった若い世代や子育て世代等からも意見を聴取できるよう対象者を設定した。 | |
| 5. 周知方法、並びに周知時期(実施のどのくらい前に周知したか) | |
| 周知方法: 広報はちおうじ、市HP、市SNS(Facebook、Twitter、LINE)、室Facebook、郵便、依頼文等 周知時期: おおむね1か月前(市民参加方法により異なる。また、実施直前や実施中にも周知を行った。) | |
| 6. 実施場所(実施内容)について(どのような考えで決めたのか) | |
| 中学校区別WS: 多様な特性を持つ地域の声を幅広く聴取するため、中学校区ごとに体育館等で開催。 懇談会: 利便性向上と感染症拡大防止を図るため、駅周辺の会場とWEB参加の選択制。 ※実施場所がある2つについて記載 | |
| 7. 意見反映について(上記1で記載した市民参加方法の実施回ごとに寄せられた意見は、計画や条例等策定のどの段階で活用したか) | |
| 策定の段階では、プロジェクトチームによる検討、事務局の策定作業、所管調整等。計画内容では、「みんなで目指す2040年の姿」や重点的に取り組む「重点テーマ・取組方針」の設定等 | |

8. よりよい市民参加のための新たな実施方法について（どのようなアイデアが考えられるか）

対象の拡大（交流人口や関係人口）、新たな技術の活用（WEB 会議、メタバースなど）、電子回答方法の見直し（東京共同電子申請・届出サービスではなく、Google フォームなどの活用） 等

9. 市民参加促進について（促進のために必要なことは何か。——市民が自主的に参加したくなるような動機づけとして考えられるものはあるか）

市民参加の対象となる事業が、何を目的に行うものであるか、市民の暮らしにどうつながり、影響するか、対話を通じて理解を深め、一人ひとりが自分事と捉えてもらうことが必要である。

10. 上記1で記載した市民参加の方法を実施した感想（市民参加とはどうあることが望ましい・あるべきと感じたか）

市民参加をきっかけに、気軽に社会活動に参加し、多様な活動につながることを望ましい。